

# 教区通信 ふくおか

2024(令和6)年8月19日発行

Vol.143

発行

「御同朋の社会をめざす運動」  
福岡教区委員会

「御同朋の社会をめざす運動」（実践運動）スローガン

結ぶ絆から、広がるご縁へ

—From tying bonds to great encounters—



▲本願寺福岡教堂・福岡教区 親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要

## P4～5 SHINRAN'S FESTIVAL (親鸞聖人御誕生850年 立教開宗800年慶讃記念行事)

P2 福岡教区慶讃法要に参拝して

第323回 定期宗会報告

P3 教区会議長 就任のご挨拶  
組長代表 就任のご挨拶P6 第5期福岡教区総合基本計画  
福岡教区重点プロジェクト実践目標についてP7 「私が感じた浄土真宗」  
法話「喜べないままに」

P8 親鸞聖人鑽仰講座のご案内・編集後記

## 福岡教区慶讃法要に参拝して

伊藤 紗子（御笠組 正宗寺）

二〇二四（令和六）年五月九日・十日・十一日の三日間、福岡教堂礼拝堂において親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要が行われました。二〇二三（令和五）年に親鸞聖人が御誕生されて八五〇年となり、二〇二四（令和六）年には淨土真宗が開かれから八〇〇年となります。この法要は、親鸞聖人の説き示してくださいた淨土真宗のみ教えに出遇うことがなければ、今の私はあり得なかつたという聖人への感謝と、そのみ教えに出遇えたことの喜びを込めて、聖人の御誕生を祝い立教開宗へ感謝する法要です。

教区門徒推進委員会より三名が受付係、仏教青年会より二名が駐車場係として三日間お手伝いされました。各組参拝日の割り当てがされていましたためか、特別な混雑はなかつたようです。

記念布教は特命布教使山田教尚師（東海教区鈴鹿組存仁寺）のご法話でした。

慶讃法要は宗祖讃仰作法（音楽法要）のお勤めでした。

コンサートはJ I O N・慈音・井石 弾さん（ヴァイオリン演奏者）と野口志保さん（ピアノ演奏者）お二人の演奏でした。情熱大陸に始まり、君といつまでも・蘇州夜曲・舟唄など、ほとんどの方が聞いたことのある曲で、素晴らしい演奏でした。僧侶である井石さんは、演奏の合間にこれまでのご自身の経験やおばあちゃんのことをお話しされ、笑いと涙もありハンカチを目元に当てる方もおられました。

落語会は落語家林家染二さん（龍谷大学卒業生でもあり、龍谷大学の特別講義へ出講もされている）の高座をお聴きしました。今回の演目の一つは、慶讃法要のために書き下ろされたそうです。パワフルでもあり、親しみを感じる噺でした。

午後一時から五時まで、盛りだくさんのありがたい内容の慶讃法要でした。お参りくださった方々はそれぞれの味わいをされたことと思います。

## 第三二三回 定期宗会報告

門徒宗会議員 太田 喜之（早良組 徳常寺）



今回、門徒宗会議員となり、二月二十八日から三月八日までの十日間、本山会議場での初の定期宗会に参加してきました。

福岡教区からの新人であり、全国でも一番の新人とすることで、議席最前列の先頭、一番議席札を立てて私の席となりました。

初日はご門主様をお迎えして開会の儀礼が進み、午後からはいよいよ、事前提出の通告質問

状による議員と総局との熱い議論のやり取りとなりました。予想通り、通告質問の半分以上は、領解文問題でした。まず総合研究所の満井所長から、この度の解釈については受け取る「義」の違いであり問題はない、勧学からも解説文付きの条件で了承をされた旨の説明があり、それでも收拾は付かず、総長の「覚悟を持つて」今宗会の議案を通すということまでの代償として総長辞任、ということまで発展してしまったのでした。

今後の領解文問題はそのまま棚上げされ、次総局・総長に引き継がれるわけですが、私は今回領解文問題がヒートアップした故に、その他の問題視されるべき諸問題まで流されることがないよう、今後さらに注視していくことがあるように感じました。といいますのも、●本山隣接の巨大な敷地（八千坪）のこれから活用問題、●あそか花屋町クリニックの残念なる閉院、などは、議場で総局からの説明を聞くたびに大変お粗末としか言いようのない経営管理の甘さ、意味のない億単位の支出がコンサルの言う通りに出て行き、頼り切りのお任せ経営の一端が垣間見え、総局も淡々と赤字を事務処理していき、今後に生かす反省など忙しさ、煩雜さに気を取られ、全く無いに等しいお役所仕事だな、と言うのが正直な実感でした。教義上の領解文問題は僧侶議員が強いように、こういったコンサルとの駆引き、チエックのために我々経営者も多い門徒議員がいるわけで、今後はこちらにも時間を割き、また、さらには過疎化・寺離れ問題の早急な議論こそ喫緊の課題であり、領解文問題に費やしたような異常な割合の時間を割いた問題を今後一日も早くクリアにして、これら他の重要議案にもしっかりと取り組めるよう、切に願う次第である、という所感を持つたことを、まず初めての宗会に出た報告としたいと思います。

## 福岡教区 組長会名簿

ブロック	組名	寺院名	組長
西	福岡	浄満	井浦 智眼
	志摩	安養	清水 朋行
	怡土	明勝	吉富 正信
	早良	照安	毛織 光澄
中	上下	西宗	藤 玄洋
	御笠	西蓮	中川 正法
	夜須	西念	小山田 真哉
東	嘉麻	善照	西原 尚之
	東筑	西法	西村 達也
	遠賀	恩光	佐竹 教行
	鞍手	照安	須藤 哲昭
	西嘉穂	福専	田中 授朗
南	三門南	西法	杉本 正英
	三門北	西光	宿利 宏
	柳川	光明	傍示 裕昭
	八女	専勝	月足 雄二
	下川東	勝萬	渡邊 賢二
北	宗像	寶蓮	青木 一乗
	粕屋	光雲	入江 俊一
	那珂	淨運	白山 義章



四月十九日の臨時教区会におきまして、教区会議員の皆さんにご推挙いただき、議長に就任させていただきました。

教区会は、「御同朋の社会をめざす運動」（実践運動）をあらゆる角度から推進していくための活動経費基盤を公正に諮り、運営していく機関だと理解しています。

慣れない役職ですが、教区会議員の皆さまの貴重なご意見やご提案をいただきながら、実り多い議論が展開され、あらゆる人々が他自己共に心豊かに生きることのできる社会の実現を目指していけるよう務めたいと思います。ご協力、どうぞよろしくお願ひいたします。

## 福岡教区 教区会議員名簿

組	所属寺院名	僧侶・門徒	議員名前
福岡	専立	僧侶	藤 泰澄
福岡	順正	門徒	波多江博司
志摩	浄円	僧侶	寺本 一道
志摩	専照	門徒	友納 辰也
怡土	正善	僧侶	原田 円城
怡土	妙休	門徒	西原 積
早良	明性	僧侶	成澤 隆文
早良	浄覚	門徒	藤松 章二
上下	専照	僧侶	吉田 一道
上下	万徳	門徒	林 茂喜
宗像	西教	僧侶	青木 智了
宗像	西教	門徒	花田 鷹人
御笠	西正	僧侶	山内 真隆
御笠	榮法	門徒	石内 孝典
夜須	光照	僧侶	大内 芳淳
夜須	信覚	門徒	堤 正治
嘉麻	教元	僧侶	福沢 無量
嘉麻	善來	門徒	中嶋 團次
東筑	西徳	僧侶	篠田 賢照
東筑	照養	門徒	佐野 博之
遠賀	安養	僧侶	富士原瑞城
遠賀	安養	門徒	安高 直彦
三門南	浄明	僧侶	中尾 弘文
三門南	西法	門徒	吉永 政博
三門北	浄光	僧侶	黒木 観之
三門北	興徳	門徒	甲斐田茂幸
柳川	善福	僧侶	蒲池 公隆
柳川	浄華	門徒	武藤 純
八女	莊嚴	僧侶	矢野 尚之
八女	莊嚴	門徒	新原 正芳
下川東	浄弘	僧侶	下川 弘文
下川東	勝萬	門徒	松尾 正巳
鞍手	萬福	僧侶	壬生 善海
鞍手	光福	門徒	福原 研治
粕屋	信行	僧侶	神崎 由生
粕屋	明覺	門徒	安河内好信
那珂	善教	僧侶	今泉 信生
那珂	光行	門徒	鈴木 正伸
西嘉穂	明光	僧侶	中尾 流一
西嘉穂	福専	門徒	尾上 博久



福

岡教区は、釈尊が説かれた阿弥陀仏の

本願、「南無阿弥陀仏」を仏法といただか

れた親鸞聖人のみ教えに問い合わせ学び、実

践していくことをする組織であると考えます。

昨年は本願寺で、本年は福岡教区で「親

鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年

慶讚法要」が勤修されました。法然聖人が

開いてくださった愚者の救い、凡夫の往生を有り難くいただきました。

親鸞聖人は、「いづれの行にても生死をはなることあるべからざる」わが身

は、いづれの行にても生死をはなることあるべからざる

と気づかれ、慚愧と歓喜の人生を生き抜かれました。

立教開宗八百年を迎えた今、私たちこそ「わが身をたのみ、わが

こころをたのむ、わが力をはげみ、わがさまざまの善根をたのむ」

相(すがた)であると気づかねばなりません。そのような私たちが

救われていくのは、阿弥陀如来の本願力、他力によるしかないこと

を親鸞聖人は明らかにしてくださいました。そのみ教えを拠りどこ

ろに、共に歩ませていただきましょう。

## 組長代表 就任のご挨拶

井浦 智眼 (福岡組 淨満寺)

山内 真隆 (御笠組 西正寺)

# SHINRAN'S FESTIVAL

実行委員長 佐々木 龍明（那珂組 寂靜寺）

6月30日、アクロス福岡イベントホールに於いて、混迷の世に、『世のなか安穏なれ』と願われた宗祖親鸞聖人のご誕生を祝い、また、「一人居て喜ばば二人と思うべし」と850年の時を越え、私たち一人一人の命のうえに南無阿弥陀仏とはたらいてくださる聖人のお姿を偲び、そのお姿こそが、立教開宗の精神（おこころ）と受け止め、ゲストに今村敦子さん・二階堂和美さんを迎えて「シンランズ・フェスティバル」を開催しました。



親鸞聖人が90年のご生涯を通して、あきらかにしてくださったことは、阿弥陀様の「生きとし生けるもの全てを救う」という願いであります。現在、国連が提唱しているSDGsの中に、特に「誰一人取り残さない」という理念があります。この理念は、先に述べた「生きとし生けるもの全てを救う!!」という阿弥陀様の願いと似ているように思います。



つまり、親鸞聖人の生き方を学ぶとき、『阿弥陀様の願い』である仏教がおよそ2500年の歴史の中で大切にしてきた、ものの見方や考え方。これらはこれから時代の中でも色あせることなく輝き続けて行くと思います。多くの先達が命をかけて 結び・繋ぎ・伝え・遺してくださった「南無阿弥陀仏」のお念仏を、次の時代を担う子や孫に、結び・繋ぎ・伝え・そして遺して行きたい。そのような想いを込めて、テーマを『仏教SDGs～つないできた想いを、未来へつなぐ～』と掲げました。

このテーマを一つの形にしたのが、約100名（稚児35名）の稚児行列や筑紫女学園聖歌隊の皆さんと共に勤めた「宗祖降誕奉讃法要」、そしてステージでのダンスや書道パフォーマンス、各ブースでのワークショップです。

延べ800人を超える来場者を迎えるの方々とこのご縁を喜び盛会のうちに終えることが出来ました。

ここに、教区内各寺院・ご門徒・筑紫女学園の皆さん・法要実行委員の皆さん、ほか多くの方々に深く感謝申しあげます。有難うございました。



## 「御同朋の社会をめざす運動」（実践運動）第5期福岡教区総合基本計画 【2024（令和6）年度～2027（令和9）年度】

「御同朋の社会をめざす運動」（実践運動）は2024年度から2027年度までの4年間を第5期として取り組んでいきます。

私たちを取り巻く社会情勢は多くの悲しみと不安に満ちています。私たち一人ひとりがあらゆるいのちを救いの対象とする阿弥陀仏の願いにであります、支えとしながら社会の中の苦悩を他人事とすることなく生き抜いていくことが「御同朋の社会をめざす運動」（実践運動）です。

私たちの直面する課題は一つではなく多岐にわたります。時代の波にのまれメディアなどで大きく取り上げられる課題のみに注力してしまうことや、自らの課題は目の前の事象一つでよいと決めつてしまい自己満足で終わってしまうことで、誰かの悲しみを諦めさせたり、押し込めることを強制することのないようにしなければなりません。このことは、これまでの4期12年の活動の中でも度々「現実の苦悩や課題からスタートする運動ではなく、仕事として与えられた運動となっていないか」という声があがっていることにも通じる反省です。

そのためにも、これまでの「御同朋の社会をめざす運動」（実践運動）の取り組みを振り返ると同時に、それ以前より「同朋運動」「門信徒会運動」から「基幹運動」へと続いてきた様々な取り組みを点検し継承していく必要があります。

教団の抱える差別体質や非戦平和への取り組みなどについても成果は生みだしつつも、まだ十分とは言えません。継続してそれぞれの学びを深めつつ、新たな課題として災害支援や自死、貧困などについてもその課題解消に向けて取り組みを進めていきます。

### 福岡教区重点プロジェクト実践目標について

＜貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～＞—子どもたちを育むために—

福岡教区では近年、宗門の定めた重点プロジェクトの実践目標をもとに「貧困」を課題として研修会の開催などの取り組みを行ってきました。また、教区内各組においてはこれと併せて「災害支援」や「寺院活動（み教え）をとおして悲しみに寄り添うこと」などを目標として設定してきました。

これらの活動を引き継ぐ第5期前半の福岡教区の取り組みとして、まず教区内各組のこれまでの活動の課題と成果を共有することで「御同朋の社会をめざす運動」（実践運動）および「重点プロジェクト」の意義を再確認します。み教えを支えとして生きるということは特別な活動を行うことではなく、それぞれの念仏者としての日々の営みの集合が「御同朋の社会をめざす運動」（実践運動）であることを確認していきます。そのうえで社会と私の課題に対する取り組みを学び、考えることで運動をより推進していきます。

また、第5期後半では確認された課題への取り組みに対して教区として支援する方法を確立し、具体的に実践することを目指します。

「貧困」をはじめとする社会における種々の課題は多面的な要因によってもたらされます。その要因の一つが社会を構成する「私」です。自らの姿を改めて受け止めなおしたときに取り組むべき活動は明らかになっていきます。私たち一人ひとりが、お念仏をいただくものとして、支えあいながらも主体的な自身の歩みを確立させることを目指して運動に取り組んでまいります。

## 「私が感じた浄土真宗」

濱口 真衣（本願寺福岡教堂 元派遣職員）



私は「ご縁あつて」この福岡教区・教務所で約四ヶ月間勤務いたしました。

主な業務としては、月に一度の「親鸞聖人鑑仰講座」の配信サポートでしたが、浄土真宗や仏教の知識がほとんどなかつた私は「法話つて何のこと?」状態でした。最初は馴染みのない言葉ばかりでしたが、聞いていくうちに、クスッと笑えたり、ジーンとしたり、心がスッと軽くなったり、なるほど!と思わずノートにメモをとることもありました。生きることの難しさや楽しさ、人生の疑問をゆっくり紐解いていくようなもので、たとえ内容が難しく感じたり、話を忘れてしまつてもそれでもいいんだと話されていたことが印象的でした。

門徒の方にしかわからないことを話すのかなと勝手にイメージしていましたので、自分にも十分響く内容があつたことが驚きでした。

また、一月の報恩講法要では、感謝の気持ちを表すことの素晴らしさを目の当たりにしました。何かに縛られ焦つて生きている人に対してしつかりと自分やまわりと向き合っている人、どちらがより豊かに生きていけるかは分かりきつたことですが、いろんなヒントをここでもうえた気がします。人と人が自然に寄り添えるコミュニケーションを私もいつか作れたらいいなと、自身の人生観、仕事観においてとてもプラスになりました。

去年、とても世話になつた祖父のお葬式で初めて「浄土真宗」に触ることになつたのですが、その数ヶ月後にまさかこの教務所で働くとは思いもしなかつたので、本当に「ご縁あつて」ここにこれたのだなと思います。そして何より、優しく迎えてくださつた教務所の皆さんに感謝しています。改めて、ありがとうございました。

## 法一言

「喜べないままに」 七里 誓路（福岡組 善照寺）

山本仏骨和上（九〇〇—九九二）が、とあるお寺でお説教をされたときのお話であります。和上がお話をしておりますと、目の前で聞かれていた女性が突然泣き出されたそうです。それで和上は、「この人は感受性の強いお方だなあ。」と思われました。しばらくすると、あちらでもこちらでも泣き始めた方が増えたようで、前席が終わるころには、本堂の中の大半のお同行が泣いていたといいます。和上は「おかしいな」と思い、休憩中ご住職に「私の話を聞いてえらく感動してくれたんだろうか、あんなに本堂が泣いている人ばかりになつたのは初めてです。このお寺ではよくあることですか。」と尋ねられると、ご住職が「ええ、最近はあれが流行つて困つておるんです。」と仰られたそうです。よく聞いてみると、それは「泣き同行」というものらしく、お説教を聞いて涙を流さないと救われることにならないんだそうです。涙を流すのが救われた証拠となりますと、泣けば泣くほどありがたい人ということになりますから、泣き合戦が始まつたというわけです。

少し極端な例かもわかりませんが、もちろんこれは浄土真宗のご法義ではありません。阿弥陀様は、「お説教を聞いて心から喜んで涙を流したら、あなたを助ける。」とは仰りません。逆に「喜べなかつたら助けない。」とも仰りません。「何があつても、どのようなあなたであつても、命つきたならば必ず我が国浄土の仏として生まれさせるからね。喜べないなら喜べないままに。身体が弱つてお念佛が出ないなら出ないままに。そのままいいよ、そのままのあなたを何があつても助けるからね。私がいるよ。大丈夫だよ。」といつでも救いを告げてくださる仏様です。その仏様は遠いお淨土でじつとしてはおられません。南無阿弥陀仏という、私の耳に聞くことができる、口から称えることのできる、お念佛の姿となつて私の命に添い遂げてくださいます。

最後に足利義山和上（八四一九〇）の御法語を紹介させていただきます。

『ひとえに仏の御力にて助けたまわるなれば、たとい歎喜の心起こればとて、これにて参ると思うべからず。喜びのなればとて、かくありては参られまじと気づかうべからず。ただいつにても思い出せしときは、今の心のなりにて助けたまうとは、ただありがたやと思ひて称名相続するばかりなり。』

本願寺福岡教堂  
親鸞聖人鑽仰講座

～2024（令和6）年度のご案内～

期　日

ご　講　師

<b>9月</b>	14日（土）前席 14日（土）後席・15日（日）	轟　慈照師（中央区　傳照寺） 田中　覺師（西区　清教寺）
-----------	-----------------------------	---------------------------------

<b>10月</b>	14日（月）前席 14日（月）後席・15日（火）	中川　一晃師（筑紫野市　願應寺） 泉谷　篤士師（朝倉市　専念寺）
------------	-----------------------------	-------------------------------------

<b>11月</b>	14日（木）前席 14日（木）後席・15日（金）	大蔵　誠道師（糸島市　法正寺） 椿　教信師（粕屋町　真覺寺）
------------	-----------------------------	-----------------------------------

<b>12月</b>	14日（土）前席 14日（土）後席・15日（日）	笠　賢信師（南区　妙静寺） 実松　弘美師（南区　照安寺）
------------	-----------------------------	---------------------------------

**2025年**

<b>2月</b>	14日（金）後席・15日（土）	蓮谷 啓介師（大分県 大分市）
-----------	-----------------	-----------------

<b>3月</b>	14日（金）前席 14日（金）後席・15日（土）	浮島 範道師（みやま市 安養寺） 北原 光昭師（宮若市 覚圓寺）
-----------	-----------------------------	-------------------------------------

○時　間 13時30分～15時30分 ○会　場 本願寺福岡教堂 3階 礼拝堂  
○LIVE配信あります (福岡市中央区黒門3-2 Tel 092-771-9081)

**新職員の紹介**

4月1日付人事異動に伴ない鹿児島教区教務所より福岡教区教務所に配属となりました。鹿児島教区での経験を活かし、精進いたします。ご指導・ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願ひいたします。



大島　光海  
(福岡教区 怡土組 浄福寺)

編集  
後記

先日、79回目の終戦の日を迎え、翌日にお盆法要とあわせて全戦争犠牲者追悼法要を拙寺にてお勤めしました。来年は戦後80周年。釈尊のことば「己が身にひきくらべて、殺してはならぬ。殺さしめてはならぬ。」をいつも心に留めておきたいと思う日々です。

**ホームページ・SNSもどうぞご覧ください**

ホームページ→



LINE→  
(ID:100xlzmt)



YouTube→



X (旧Twitter)→  
(@f\_hongwanji)



**発行責任者**

浄土真宗本願寺派 福岡教区教務所長 高原 真見  
〒810-0055 福岡市中央区黒門3-2  
電話:092(771)9081